10 円壁画のかすれ印刷

永吉 秀夫

かつて国内封書用の普通切手という大役を担った「10 円壁画」の話題です。1951 年の年末に銭単位を表す「ゼロつき」で発行された後、「ゼロナシ」に改版されて 1961 年まで大量に製造・使用されました。

その初代「10 円壁画」なのですが、このようなものを入手することができました。印刷不良品です。

この切手は灰紫色の濃淡 2 色を重ねた凸版 2 色刷りですが、左側の切手では淡色の印刷が部分的に消えて、枠線と文字部分(国名、額面文字)が全く見えません。右側の 20 枚ブロックでは、2 段目から 3 段目にかけ濃色の方がかすれて、菩薩様のお顔が「おばけ」みたいに見えます。どちらの切手でも、1 色の印刷が完全にもれているわけではありません。

昨年刊行された「動植物国宝切手カタログ」(鳴美)によると、印刷中に何らかの事情で一時印刷機を止めたときにインクが半乾きになったため、作業再開後に版面一周分の印刷がこのようなかすれ印刷となったとのこと。「1 色もれ」ではなく「ドライプリント」と呼ぶのが正しいのだそうです。もちろんこのようなものは検査で除去すべきものですが、その検査をすり抜けたものが収集家を喜ばせてくれます。